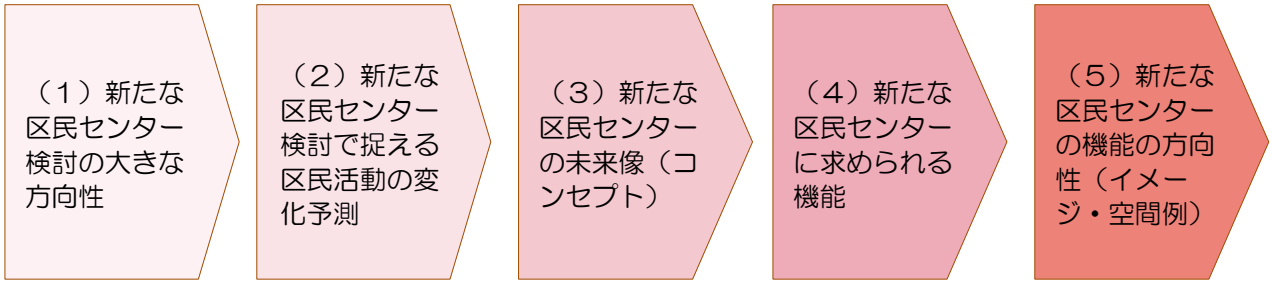
# 第２章　新たな区民センターに向けて

## １　新たな区民センターの整備に向けて

本章では、新たな区民センターの整備に向けて、次の流れで整理していきます。




### （１）新たな区民センター検討の大きな方向性

前章までに見てきたように、区民センターは、これまで各種の区政課題に対応するため、施設ごとにそれぞれの分野ごとの区民サービスを提供するとともに、区民が行う活動拠点として、また、人々が集う賑わいの場として多様な利用がされてきました。一方、建物・設備面や運営面で、社会状況等の変化とともに様々な課題も生じてきています。

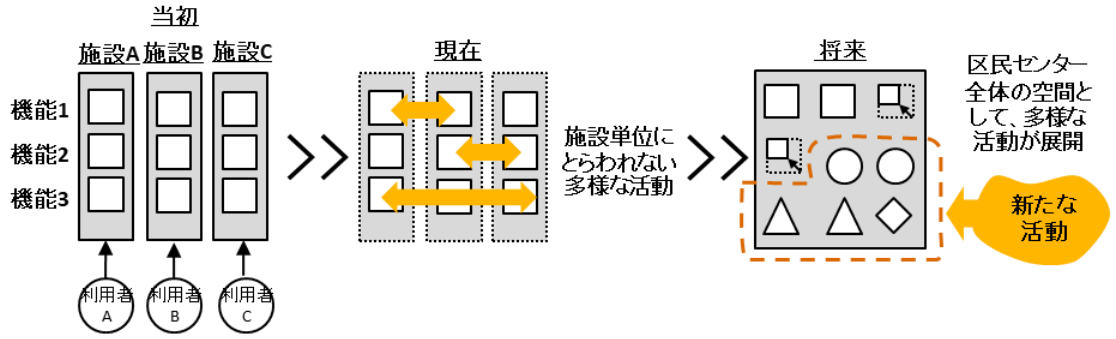
そうした中、社会状況や区民生活の変化などを背景に、区民活動は多様化し、それに応じて区民センターの利用のされ方にも変化が見られています。今後の社会潮流等を踏まえると、施設の利用のされ方はさらに多様化することが見込まれるため、将来にわたり施設全体として柔軟に応え続けていくためには、既存機能の融合配置や新たな機能の導入なども含めて効果的に配置していく必要があります。

機能の具体化に当たっては、「区有施設見直し計画」に掲げた見直しの原則及び手法に基づきつつ、特に、民間活力を積極的かつ多様に活用し、施設整備及びその後の運営を効率的・効果的に進めていくことが重要となります。これは、本取組が区有施設見直しのリーディングプロジェクトであり、今後も続く区有施設見直しのモデルケースであるという点からも不可欠な視点となります。

＜区民センターの利用のされ方の変化＞

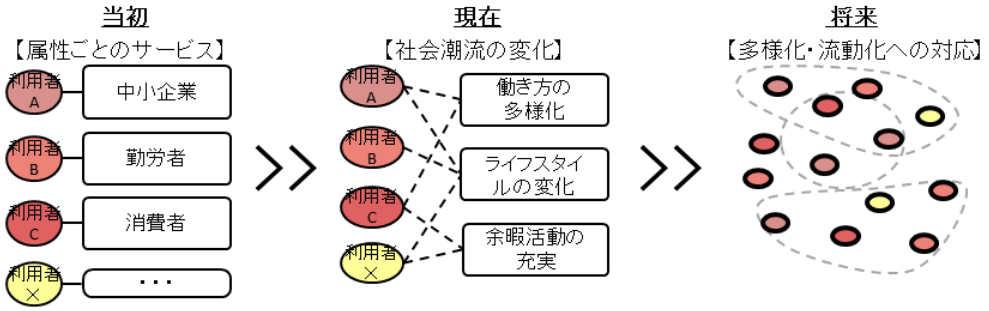
**施設の利用実態からみた区民活動の変化**

・これまで区民センターでは、施設毎に利用者へサービス（機能）を提供してきました。
・しかし、施設の利用実態をみると、施設の単位にとらわれない多様な活動が展開されています。
・また、区民の活動が多様化することで、当初想定していない新たな活動も生まれており、区民センター全体の空間として、新たな活動に応え続けていくことも期待されています。




**将来を見据えた社会潮流の変化への対応**

・働き方の多様化や余暇活動の充実等の社会潮流の変化により、現在は区民活動に応じたサービス（空間）の提供が期待されています。
・今後、区民活動は一層の多様化が予想されており、多様化する活動に区民センター全体で応えていくことが求められます。




以上を踏まえ、新たな区民センターは、次の大きな方向性を念頭に置きながら、実現に向けて検討していくこととします。

ア　各施設で担ってきた「はたらく」、「まなぶ」など区民活動を支える機能を継承しながらも、将来にわたり柔軟な利用を可能とする観点から、縮充（既存機能の融合化・縮減化と、新たな機能の導入により区民サービスの充実を図ること）を目指すこと。

イ　施設整備及びその後の運営も含めた事業全般において、可能な限り民間活力を導入することで、施設の魅力向上を図ること。

ウ　見直しに伴う周辺地域との関係において、利用者と地域住民が安全・安心とともに親しみを感じられる拠点とすること。

### （２）新たな区民センター検討で捉える区民活動の変化予測

国や都をめぐる社会潮流や区を取り巻く状況、また区民センターの利用のされ方など様々な状況変化を踏まえ、新たな区民センターの検討に当たり捉える区民活動の変化予測として、以下の諸点を捉えながら、「主体性・共有性の促進」「多様性の尊重」「柔軟性・可変性・安全性への対応」の３点に集約します。

#### *ア　新たな価値観の中で区民が自発的に活動を生み出し、周囲とのゆるやかなつながりの中で実践できること【主体性・共有性の促進】（いきいきと）*

**場所や空間の自由度の高まり**

働く場所や過ごす場所を、自ら自由に選択することができる社会になりつつあります。例えば、テレワークの仕組みを導入する企業では、社員が自らの事情に合わせて就業場所を選ぶことが可能となっています。また、多様な人々が集まり共有する空間の登場や、組織を超えた新たな活動やネットワークが生まれるなど地域で過ごす時間が増えることで、従来は地域社会に関心が薄かった人も地域の多様な取り組みに触れる場面も見られ、今後、地域への愛着や帰属意識の醸成につながることが期待されています。

**創造的な余暇活動の登場**

終業後の空いた時間や休日をスポーツや趣味の活動に費やすだけでなく、地域のボランティア活動をはじめとした社会活動に積極的に参画する人々や、また、芸術文化を鑑賞者として楽しむのに加え、自ら創作し、広く世の中に発信しようとする人々も増えています。このように、自らの思いや成果を発信したり行動したりする場面も含め、従来以上に多様な余暇活動が見られ、誰もが自らを表現し、創造的に活動しようとする機運が高まるなど、仕事以外の時間の過ごし方が多様化しています。

**「働く」概念の変化**

近年、仕事そのものの概念に変化が見られてきています。その一例として、副業を推奨する企業も増えてきており、本業以外で得られた知識やネットワークを本業に還元することで付加価値の高いビジネスを生み出したり、また、新たな創業支援や資金調達の仕組みを活用した起業も身近になり、大企業からベンチャー企業、NPO 等への組織間の人材の流動性も高まっています。このように、「本業と副業」「勤労者と起業家」「大企業と中小・ベンチャー企業・NPO 等」など、従来にはない多様な職業観が登場してきているとともに、「働く」という概念も変化しつつあります。

#### *イ　多様な価値観を持った人々が積極的に交流することで寛容さを育めること【多様性の尊重】（じぶんらしく）*

**価値観の多様化**

価値観の多様化が進行しています。例えば、区内には多様な世代や性別、職業、国籍の人々が共存し、日々の生活や暮らしを営んでいます。多様な個性を持つ人々がつながり、区内に地域活動や

イベント等を通じて日常的に交流し、相互理解が進み、多様な価値観を受け入れる土壌が醸成されつつあります。

**社会の包容力の高まり**

違いを前提とした包容力の高い社会に移行しつつあります。例えば、公共施設ではバリアフリー化が進み、障害の有無にかかわらず誰でも施設を気軽に利用できるようになりつつあります。また、性の多様性や多文化共生の認知が広まり、違いを前提とした社会の仕組みが構築されつつあります。このように、違いを認め合い、互いを尊重することで、誰もが力を発揮できる包容力の高い社会（ダイバーシティ社会）への希求が見られてきています。

### *ウ　ライフステージに応じて柔軟な働き方・暮らし方・過ごし方を選択できること【柔軟性・可変性・安全性への対応】（しなやかに、すこやかに）*

**ライフステージの変化への対応**

ライフステージの変化にも柔軟に対応できる仕組みが生まれています。例えば、出産・育児を機に離職した人に向けた再就職に必要な知識や技能を習得できる託児機能付きの職業訓練サービスや、男性の育児参画がしやすくなるような柔軟な働き方（残業削減、テレワークの導入等）などが登場し、社会全体での活用が進んでいます。一旦の離職後からの再就職支援や柔軟な働き方の支援など、新たなライフステージを迎えるにあたり、複数の選択肢の中からどれを選んでも自分らしく居られ、またライフステージに応じた自分らしい選択変更も可能となるような、柔軟性・可変性のある働き方・暮らし方が実現し始めています。

**生涯現役社会の実現**

人生 100 年時代を見据え、いくつになっても現役で居続けられる社会への対応が求められています。例えば、グローバル化や情報通信技術の発展等に伴い急速に変化する知識や技術に対応できるよう、高度な知識を必要なタイミングで学び直すことができる「リカレント教育」の概念が浸透しつつあります。また、地域の活動へ参画することにより、地域社会の担い手として活躍し続ける動きもあります。年齢にかかわらず、自らの知識や経験、役割を常に更新し、社会の一員として活躍し続けることができる仕組みが整いつつあります。

**安全で安心な居場所の確保**

いつでも誰でも受け入れられる、安全で安心な居場所づくりも進んでいます。例えば、会社や家庭以外で地域とつながることのできる第三の居場所（サードプレイス）として、公共施設の中で誰もが利用できるオープンスペース等の整備も始まっています。特定の目的がなくてもそこにいるだけで誰かとつながることができたり、地域の様々な活動に触れて参画する機会を得ることができたりすることで、孤立を予防するだけでなく、地域の中でのつながりが生まれることで、世代の枠を超えた、新たな活動が創造される効果も期待されています。

### （３）新たな区民センターの未来像（コンセプト）

区民センターは、建設から 45 年にわたり区民へのサービスを提供し続け、多大な役割を果たしてきました。他方、施設のハード面、ソフト面に様々な課題を抱えていることも踏まえ、新たな区民センターは、各施設で担ってきた区民活動を支えるための機能を継承しつつも、将来にわたり区民のライフスタイルや価値観、多様な世代でのライフステージの変化に寄り添い、支え続けることのできる施設となることが求められています。

このような期待に応えるためには、新たな区民センターがこれまでのように個別の機能の集合体という形を超えて、施設全体で多様な区民活動に応え続けることのできる空間として生まれ変わることが必要です。

そこで、（1）に掲げる大きな方向性のもと、（2）の区民活動の変化予測を踏まえ、新たな区民センターの未来像（コンセプト）を

**「（仮）未来とつながる　人とつながる　新たな自分とつながる」**
**“できる”が広がる創造空間**

と設定したいと考えます。

この未来像（コンセプト）の実現により、新たな区民センターが、社会・地域における人々の信頼関係や結びつき、そして区のシンボルとして地域のさらなる魅力向上に貢献し、ひいては将来にわたり区民の生活水準の向上につなげる役割を担う空間となることを目指していきます。

### （４）新たな区民センターに求められる機能

新たな区民センターの未来像（コンセプト）の実現に向けて、新たな区民センターが今後の区民活動の変化にどのように応えていくか、（2）で整理した今後の区民活動の変化予測を踏まえ、次の活動空間イメージをもとに、施設に求められる機能を整理します。

**ア　新たな価値観の中で区民が自発的に活動を生み出し、周囲とのゆるやかなつながりの中で実践できる空間【主体性・共有性の促進】（いきいきと）**

- 新しいアイディアを生み出し、積極的に発信すること　≪つくる、つたえる≫
- 自身の嗜好やライフスタイルに合わせて、働き方や過ごす場所を自由に選択すること　≪はたらく、つどう≫
- 組織や所属を超えて多様な人とつながり、知識や体験を共有すること　≪つながる、つどう≫
- 自身の経験やスキルを生かして他者を支援し、地域社会に貢献すること　≪ささえる≫

**イ　多様な価値観を持った人々が積極的に交流することで寛容さを育める空間【多様性の尊重】（じぶんらしく）**

- 世代や性別、国籍に関わらず、誰もが参加できる活動の場を設け、多様な価値観に触れる機会を生み出すこと　≪つどう、つながる≫
- 多様な人々との交流を通じて、考え方の違いを理解すること　≪つながる、まなぶ≫

**ウ　ライフステージに応じて柔軟な働き方・暮らし方・過ごし方を選択できる空間【柔軟性・可変性・安全性への対応】（しなやかに、すこやかに）**

- 育児や介護などライフステージの変化への備えや必要となる対応、支援策等について理解すること　≪まなぶ、はぐくむ、ささえる≫
- 年齢や学歴に関わらず必要な最新の情報を気軽に入手することができ、新たな学びの機会が与えられること　≪まなぶ、はぐくむ、はたらく≫
- それぞれが思い思いの場所でくつろぎ、利用者同士で自然発生的に交流が生まれること　≪いこう、やすらぐ、つながる≫
- 地域の様々な活動が可視化され、多様な参画の機会が得られること　≪つながる≫

以上の活動空間イメージを踏まえると、今後、新たな区民センターに求められる機能は、次の５つの類型に集約・整理されます。

**①　つくる・つたえる**

**②　まなぶ**

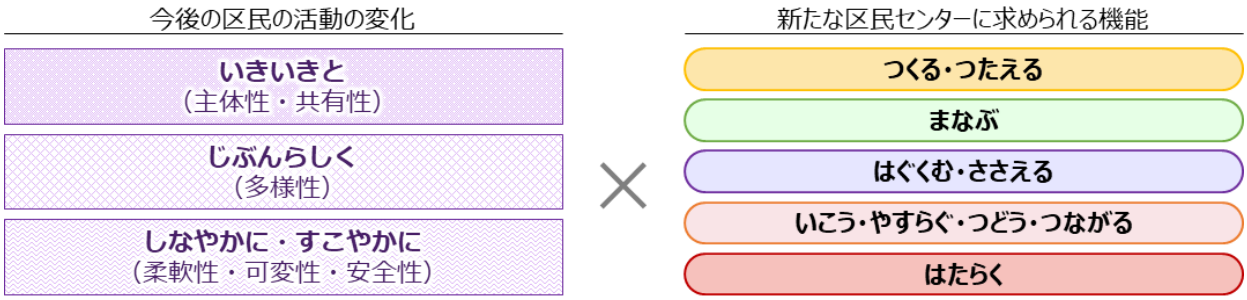
**③　はぐくむ・ささえる**

**④　いこう・やすらぐ・つどう・つながる**

**⑤　はたらく**

### （５）新たな区民センターの機能の方向性

（４）で整理した「つくる･つたえる」、「まなぶ」、「はぐくむ･ささえる」、「いこう･やすらぐ･つどう･つながる」、「はたらく」という５つの機能について、民間活力の活用による空間整備・サービス提供も含め、それぞれ具体的なイメージと空間例を示します。




#### ア　つくる・つたえる

- 個人やグループが作業を行い、新しいアイディアや成果を生み出すことのできる空間
- 音楽や演劇、ダンス等の練習や、書道や華道、美術などの多様な創作活動が可能となるとともに、成果や作品の発表・展示の機会を充実させることのできる空間
- 多様な芸術文化に触れる機会を充実させることのできる空間

**空間例**

・多様な利用者を受け入れることのできるコワーキングスペース[4]、ファブラボ[5]

・音楽や運動など、多様な活動に利用できるスタジオ

・平土間や固定席等が切り替えでき、多様な活動に利用可能なホール

・区民が気軽に作品を発表し、また活動できるミニギャラリー

・美術作品に触れることができるアートスペース　　など

展示、音楽発表等が可能なギャラリー
（武蔵野プレイス）

可動式座席を備えたホール
（茅野市民館・マルチホール）

[4] コワーキングスペースとは、事務所スペースや会議室、打ち合わせスペース等を共有しながら独立した仕事を行うオープンなオフィス空間。イベント等を通じて参加者同士のコミュニティ育成を重視する等の特徴がある。
[5] ファブラボ（FabLab）とは、個人が利用できる 3D プリンターやカッティングマシン等の多様な工作機械を備えた工房をいう。

### イ　まなぶ

- 自主学習や共同学習ができ、区民の学びの質を高めることのできる空間
- 電子書籍やデータベース等を利用できる機会を充実させることで、子どもから大人までの知的好奇心に応えることのできる空間
- 自ら勉強会やセミナーを企画・開催し、多様な学びの機会を充実させることのできる空間

**空間例**

・予約制で多くの区民が利用できるスタディコーナー
・電子書籍やデータベースが利用可能な図書スペース
・間仕切りを取り外しできる自由度の高い会議室
・多様な活動に対応し、多様な利用形態が可能なホール　　など

間仕切りの設置による柔軟な空間
（大和市市民交流拠点ポラリス）

電子書籍が利用可能な図書館
（千代田区千代田図書館）

### ウ　はぐくむ・ささえる

- 誰もが利用できるオープンスペースを活用して、多様な価値観に関する様々な情報発信等を行い、認知度を高めることのできる空間
- 地域のまちづくりや NPO 等の活動の紹介スペースが設けられ、区民が気軽に地域活動やイベントに参加することのできる空間
- 地域で子育て世代を支援し、また子どもの健全な育ちを支える空間
- 健康増進に資する様々なメニューが充実し、気軽にスポーツに親しむことのできる空間

**空間例**

・誰でも立ち寄ることのできるオープンスペース
・地域の様々な活動を目にすることのできる情報発信スペース
・区民からの相談を受け付けるイベント的な行政活動コーナー、相談スペース

乳幼児をもつ親子を対象とした交流スペース
（大和市市民交流拠点ポラリス）

ワークショップのできる多目的スペース
（横浜市民ギャラリーあざみ野）

### エ　いこう・やすらぐ・つどう・つながる

- いつでも思い思いの時間を過ごすことのできる、制約の少ない自由な空間
- 年齢や障害の有無等を問わず、誰もが利用しやすいフラットな空間
- イベントや交流活動などが誰の目にも触れる場所で開催され、新しい活動に出会い、参加することのできる空間
- 居心地の良いサードプレイス（住む、働く場所以外の居場所）として、また時には様々なイベントによる賑わいが生まれ、地域の安全・安心も支える自然空間

**空間例**

・誰でも自由に時間を過ごすことのできるフリースペース

・バリアフリー化され、明るく開放的な施設

・不定期でイベントやセミナーなどが開催され、気軽に立ち寄ることのできるカフェ

・都心にいながらもいつでも安らげ、また賑わいも生まれる公園、水辺空間　　など

開放的なフリースペース
（大和市文化創造拠点シリウス）

カフェを備える施設
（武蔵野プレイス）

都心の中のくつろげる公園
（南池袋公園）

川を活用した都心の憩い空間
（渋谷川）

### オ　はたらく

- 区民の多様な働き方に対応できる、区民が落ち着いて作業に取り組める空間
- セカンドオフィスとしての利用も可能な空間

**空間例**

・事前に座席の利用が予約できるワーキングスペース

・少人数の打合せや交流ができるオープンスペース　　など

ワーキングスペースなど
（武蔵野プレイス）

## ２　新たな区民センターの実現に向けて留意すべき視点

新たな区民センターの未来像（コンセプト）を実現するためには、施設を効果的かつ効率的に整備していく必要があります。

そのためには、整備の方法や整備後の運営方法、また整備に必要となる財源をどのように確保するかを重点的に検討する必要があります。

### （1）整備する施設と運営面の工夫

未来像（コンセプト）の実現に向けて、施設や運営面を具体的な形にしていくため、区有施設見直しの方針を踏まえつつ、次の視点から検討していくものとします。

- **施設としての効果・効用の最大化**に向け、区民センター周辺の施設機能も含め、相乗効果が最大限生まれる機能の組み合わせにすること。
- 将来にわたり幅広い区民ニーズにも応え続けていけるよう、時間を経ても施設としての魅力を維持・向上し続けるための**柔軟性の高い運営面での工夫**をしていくこと。同時に、複合施設として、**区民にとっての使いやすさ・サービス向上を第一**に、分野や部門を横断した効果的・効率的な施設の設置、サービスの提供等を工夫していくこと。
- 施設サービスの向上に向けて、施設整備やその後の運営など事業全般において、**民間活力の活用による効果を最大限発揮**する検討をしていくこと。

### （2）施設整備に当たっての着眼点

これまでに整理してきた新たな区民センターを整備するには、どのように財政負担を軽減するかも大きな課題となります。

ここでは、施設整備の方向性（土地活用の範囲）や民間活力の活用度合いから整理します。

**パターン①　未来像（コンセプト）に合った空間整備実現に向け、民間活力も最大限活用**

- 現行の区民センター・美術館とあわせて近接する区有施設を含めて活用していくことで、新たな区民センターの未来像（コンセプト）に合った空間整備実現の可能性が高まります。そこで、区民センターに近接する下目黒小学校の敷地を含めて効果的、効率的な施設整備を目指します。小学校としても、区民センターの各機能を有効に活用できることが期待されます。
- 施設建設及び運営の各側面で、民間活力を最大限活用していくことを前提とします。

**パターン②　未来像（コンセプト）に合った空間整備を最低限実現し、民間活力は一定程度活用**

- 現行の区民センター・美術館の敷地を活用した施設整備を行います。近接区有施設を対象の敷地に含めない場合、地域課題解決も含めた区民センターの魅力創出は限定的となります。
- 上記パターン①に比較し、施設の建設及び運営の各側面での民間活力の活用度合いが低くなり、区の財政負担の割合も大きくなります。

**パターン③　現行の建物を改修したうえ、可能な範囲で機能改善**

- 現行の区民センター・美術館の建物を改修したうえで、可能な範囲で機能改善を図ります。
- 改修となるため、現行以上の民間活力の活用は非常に限定されることが見込まれます。

下図は、上記のパターンの概要及び財政負担の割合を総合的に整理したものです。今後、区民の皆様のご意見や民間事業者のサウンディング調査等を踏まえつつ、これらのパターンの具体化について検討していきます。

| | パターン①<br>【改築・規模拡大】 | パターン②<br>【改築・規模現行レベル】 | パターン③<br>【改修】 |
|---|---|---|---|
| 施設整備の方向性（※1） | 効果的な土地活用 | | |
| | 近接区有施設（下目黒小学校（※2））の敷地を含めて改築。 | 現在の区民センター・美術館の敷地で改築。 | 現行の区民センターを改修。 |
| 民間活力の活用 | 民間活力の活用度合 | | |
| | 建設及び運営において民間活力を高い割合で活用することで、施設サービスの向上や新たなサービス提供も見込まれる。 | 建設及び運営において民間活力を一定程度活用。民間活力活用による効果は限定されることが想定される。 | 現行以上の民間活力の活用は非常に限定されることが見込まれる。 |
| 財政負担の割合 | 目黒区<br>民間 | | |
| | 民間事業者の参画により、区の財政負担の割合を相当程度軽減。（民間活力の活用の度合いが高いほど区の財政負担の割合は軽減されることが見込まれる。） | 民間事業者の参画により、区の財政負担の割合は一部軽減。 | 区がコストの大部分を負担（※3）。 |
| 未来像（コンセプト）実現可能性 | 高い | | 低い |

※1　施設規模に比例して、事業スケジュールも長くなることが見込まれます。具体的なスケジュールについては、来年度の基本構想策定作業の中で検討していきます。
※2　下目黒小学校は、昭和 39 年に建設され、築後 54 年が経過しています。
※3　平成 30 年度の課題整理では、今後、区民センター及び美術館を大規模改修した場合の 20 年間の維持管理経費（大規模改修費含む）は合計約 204 億円と試算しています。

### （３）整備に際しての周辺環境への配慮

（１）（２）で整理した施設整備を実現するためには、周辺道路や歩行環境の整備、敷地全体での効果的な公園配置など周辺環境に配慮しながら進めていく必要があり、そうした過程を踏まえる中で、今後の検討が広範に及ぶことも考えられます。

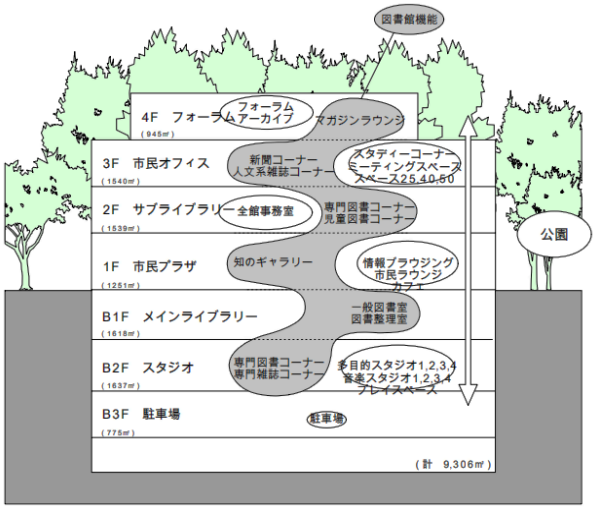
今後、周辺環境としてどのようなかたちが最適か、地域の方々のご意見を伺いながら検討していきます。

### （４）他自治体の参考事例

既に多くの自治体では、複合化により複数機能の融合を実現した取組や、民間活力を活用した施設整備などの取組が行われています。

#### ア　武蔵野プレイス（空間と機能の融合を実現した事例）

東京都武蔵野市の「武蔵野プレイス」は、農水省食糧倉庫跡地を活用した「武蔵境のまちづくり推進」の一環として、図書館、生涯学習センター、市民活動センター、青少年センターなどといったこれまでの公共施設の類型を超えて、複数の機能を積極的に融合させ、図書の多様な活用や様々な活動を通して、人とひとが出会い、それぞれが持っている情報（知識や経験）を共有・交換しながら、知的な創造や交流を生み出し、地域社会（まち）の活性化を深められるような活動支援型の公共施設を目指して整備されました。




機能と空間の配置
（出典：武蔵野プレイスホームページ（以下同））

武蔵野プレイスでは、均質な空間を間仕切って使用するといった従来のオフィスビルの考え方ではなく、雰囲気や大きさが違う幾つかの「ルーム」（部屋としてのまとまりを持った場）が集まって連携する空間を空間構成の原理としています。

中心には「オープンプレイス」という大空間を意図的に設け、市民の交流の活性化に大きく貢献しています。

オープンスペース

### イ　大和市文化創造拠点シリウス（複合施設の事例）

神奈川県大和市の「文化創造拠点シリウス」は、老朽化や機能不足という既存施設の課題に加え、高齢社会に対応した街づくりを進めるため、芸術文化ホール、図書館、生涯学習センター及び屋内こども広場を備えた複合施設として整備されました。

建物外観
（出典：大和市文化創造拠点シリウス（以下同））

芸術文化ホール、図書館、生涯学習センター及び屋内こども広場を融合させ文化創造拠点として整備したことにより、施設の効率的な活用及び利用者の交流の幅が広がっています。また、各施設の特徴を活かしながら、単独で運営するだけでなく、共通したテーマのもと、各施設がテーマに合った事業を行うことで１つの大きな形として施設全体を盛り上げるなど、複合施設であることを最大限に活用しています。

施設は、図書館、芸術文化ホールやギャラリー、こども広場や子育て支援、生涯学習センター等を運営する６社で構成される指定管理者により運営されています。

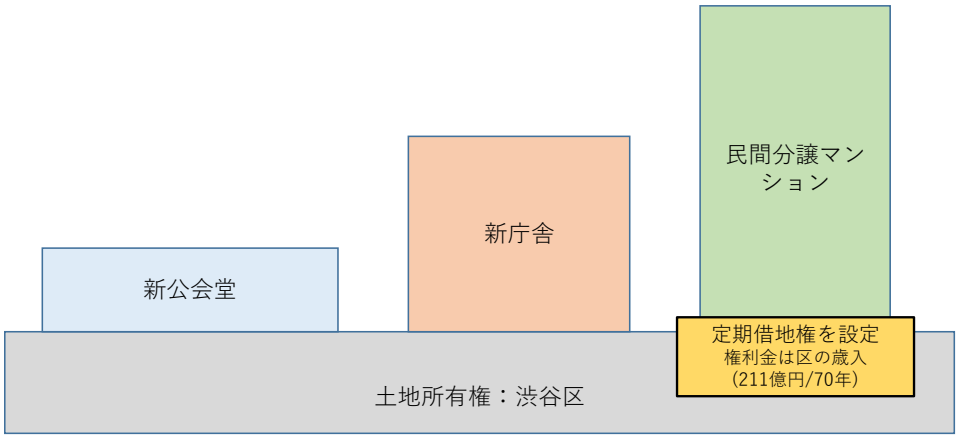
図書館の本は、館内のどこでも持出しが可能で、図書館の閲覧席にとらわれず、生涯学習センターの市民交流スペースをはじめ、館内のカフェなどで自由に閲覧することが可能です。

屋内こども広場は、こども図書館に併設されており、本を通して子どもたちの知力を高めるだけでなく、天候を気にせず遊べる空間で体力を養うことも可能です。さらに、親子の交流の場であるとともに、子ども同士、親同士の交流の場としても機能しています。

### ウ　渋谷区新総合庁舎等事業（民間活力を活用し、区の財政負担ゼロで整備を実現した事例）

平成 31 年 1 月に開庁した渋谷区の新総合庁舎は、従来の庁舎機能と公会堂機能に加え、民間分譲マンションが併せて整備されました。定期借地権を設定し、定期借地権の権利金を新庁舎と新公会堂の整備費に充当することで、一般財源を負担することのない整備を実現しています。

施設完成予定図
（出典：渋谷区）




定期借地権の仕組み

## ３　意見募集について

区有施設見直しは全区的な取組であり、これまでも利用者アンケートや区民アンケート、パブリックコメントや出前講座などを通じて、区民の皆様から多くのご意見を伺いながら進めてきました。

目黒区民センターは区内有数の大規模な区有施設であり、また「目黒区民センターの見直しに関する検討」は今後の区有施設見直しのモデルケースとなるリーディングプロジェクトであることから、このたび、「目黒区民センター見直しに係る基本的な考え方（素案）」を作成する前の検討段階において、これまでの検討状況についてお知らせするとともに、現在検討中の内容、今後検討していこうと考えている内容をお示しし、地域住民の皆様をはじめとした区民の皆様に広くご意見をいただくことを目的として作成しました。

今後、検討素材に対する皆様からのご意見を踏まえて素案を作成していくとともに、区としての一定の考え方である素案がまとまった段階で、改めてご意見を伺う機会を設ける予定です。

**【意見募集について】**

**（１）意見の出し方**

書式は問いませんので、「目黒区民センター検討素材への意見」と明記し、住所、氏名（団体の場合は、所在地、団体名、代表者氏名）を記入の上、下記の目黒区担当課あて、郵送、メール、FAX、持ち込みのいずれかで、**令和元年１１月５日（火）まで**にお寄せください。

**（２）意見の取扱い**

いただいたご意見について、個別に回答はしませんが、今後、素案がまとまった段階で意見の要旨を取りまとめて公表する予定です（住所・氏名等は公表しません）。

また、素案を公表する際には、改めて広く区民の皆様のご意見を伺う機会を設けますので、改めてご意見を提出いただくこともできます。

【担当課及び問い合わせ先】
〒１５３－８５７３　東京都目黒区上目黒二丁目１９番１５号
目黒区役所区有施設プロジェクト課（総合庁舎４階）
ＴＥＬ：０３－５７２２－９８７６
ＦＡＸ：０３－５７２２－６１３４
メール：r-kuyusisetu-project@city.meguro.tokyo.jp

「目黒区民センター見直しに係る基本的な考え方」の策定に向けた検討素材（令和元年９月）
発　　行　　目黒区
編　　集　　目黒区　区有施設プロジェクト部　区有施設プロジェクト課
東京都 目黒区 上目黒 ２丁目 １９番 １５号
電話（０３）５７２２－９８７６（直通）